令和６年度小平市立小平第六中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

**１　調査目的・対象**

**児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。**

**（１）教科に関する調査**

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

**（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

描写を工夫して文章の続きを書く問題は３ポイント、表現技法の理解については約１０ポイント全国の結果を下回っている。意欲的に解答する反面、書いて表現する問題においては条件に沿って表現技法を用い、的確に答える力を育成することが必要である。

話すこと・聞くことの領域に関する項目は全体的に高く、特に話合いの発言を踏まえて自分の考えを表現する項目は全国に比べて８ポイント高い。また、書写に関する知識も２ポイント上回っている。図を使った説明的文章においては図の読み取りに苦慮している傾向が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

・２学期中に、図の読み取りを条件にした作文指導を行い、図を読み取って思考する経験を積ませる。また、条件に沿った表現のモデリングができるように次単元の作文指導の展開を改善する。その指導では、生徒の話合いスキルを生かし、相互に推敲してよりよい表現を探す授業を展開する。

・表現技法の理解・定着については、詩の読解単元において復習をし、定期考査をとおして理解が深まっているかを確認する。定着が十分でない場合は、入試問題演習で再度取り上げて指導する。

【数学】　　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

１次関数や図形の説明を記述する問題では、それぞれ無回答率が１６％、３８％となっている。

分析により、具体的なものに置き換えて考えることはできるが、いくつかの方法で見通しをもって多角的に考えることまではできていないことが分かった。今後、見通しをもって考えることについての指導がより必要である。

データの活用の正答率は全国平均より４ポイント高く、特に樹形図を使って考える確率の問題への正答率が高かった。また、文字や記号に具体的な数を代入して考えることについて、高い結果が表れている。これは、既習の具体的な操作に戻って考える姿勢が育まれているからだと考える。

学校で取り組む具体的な改善策

１０月頃から図形領域に入る。これまでの、「求めたいものを明確にしてから取り組むこと」を継続し、さらに論証の道筋も見通しをもたせることで力を付けさせる。証明指導では、仮定と結論を明確にすることで、使ってよい事柄などを既習事項などから考えさせる姿勢を育む。また、定期考査では実際に書かせることで理解を確認させ、深めさせたい。

【質問紙】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　課題

学校で課題に対して意欲的に取り組み、振り返りや学習の価値付けができている反面、家庭では平日・休日問わず、ゲームをしている時間が非常に高く全国平均を９ポイント上回っている。PCやスマートフォンを手に取る時間を家庭学習に充てられるように、課題の設定を工夫して、生徒が家庭でも自発的に取り組みやすい課題を与える必要がある。

全体的に全国の平均値に近い傾向にある。「大人に相談できる」が全国平均よりも５ポイント上回っている。しかし「将来の夢や目標をもっている」「自分によいところがある」はやや下回っている。ICT機器を使った授業を通して、協力して課題を解決したり、自己表現をしたり、有用性を感じたりしている項目は、全国よりも５～６ポイント高い結果となった。

学校で取り組む具体的な改善策

・大人に対して、相談しやすく信頼を置かれている結果が表れている。生徒の相談にのったり、日常的に話したりするなかで、生徒が自己肯定感、自己有用感をさらに高め、将来に夢や目標をもてるような肯定的な声掛けや頑張りを認めて励ます言葉を大切にするようにして指導していく。

・各教科の指導や学級活動では、話合い活動に重点を置き、学校全体でICT機器を活用して他の人の発言を生かしながら、考えを発表・発信する授業展開を続けていく。

・家庭においてPCやスマートフォンに触れている時間が、学習の時間に変換され、知識の定着につながるようにする指導を工夫する必要がある。そのために、教育支援ソフトで課題に取り組む宿題を出す等、宿題や課題の出し方を工夫していく。また、課題が解決できない生徒に対して、解説の動画を見たり、視覚的に理解しやすい資料を送信したりして補習が行えるようにする。